授業科目名	ソーシャルワーク演習（専門）	単位数	8
担当教員名	堀越　由紀子・神原　由佳・ 砂田　淳一郎・平　雅夫・ 矢原　絵理	担当形態	オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）	社会福祉士として福祉現場の経験がある教員が、実践的視点からソーシャルワーク演習について解説する。		

「学位授与の方針」との関係

本科目は「ソーシャルワーク演習」を通して、様々な問題を抱える人や社会に対し「人や人」「人を環境」を繋げ、効果的な解決策を考えていく。このプロセスを通すことにより、自律的な課題探求能力を身に着けていくことを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

（１）ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。

（２）社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的な判断能力を養う。

（３）支援を必要とする人を中心とした分野横断的かつ包括的な支援について、実践的に理解する。

（４）地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みについて、実践的に理解する。

（５）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて、実践的に理解する。

（６）実習での事例検討や事例研究を行うことで、その意義や方法について具体的に理解する。

（７）実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

授業の概要

社会福祉士は、現代に生きる人の問題を解決しようとする支援者である。権利擁護、民主主義の人間普遍の原理、「価値」「倫理」「知識」「技術」の専門性を活力と方針で活かし、社会福祉の向上とクライエントの自己実現を目指すことが本来の目的である。そのため「価値」「倫理」から生まれる活力や方針を自己調整しつつ、「知識」「技術」の専門性を積み重ねることでクライエントとの信頼関係を強固にし、ニーズ解決に向けて調整能力を磨くことが重要である。そこで、本科目では、福祉分野での具体的な事例を取り上げながら、チームアプローチ・ソーシャルアクションの展開からロールプレイなど事例検討や事例研究を通じて、実践的観点から社会福祉士に求められる専門的援助技術について学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：高齢者虐待の事例検討

第３回：児童虐待の事例検討

第４回：障害者虐待の事例検討

第５回：ひきこもりの事例検討

第６回：終末期ケアの事例検討

第７回：災害時の事例検討 第８回：事例検討における具体的なソーシャルワーク展開（１） 第９回：事例検討における具体的なソーシャルワーク展開（２） 第１０回：事例検討における具体的なソーシャルワーク展開（３） 第１１回：事例検討における具体的なソーシャルワーク展開（４） 第１２回：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（１） 第１３回：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（２） 第１４回：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（３） 第１５回：まとめ 定期試験
スクーリングでの学修内容 スクーリングでは、①社会福祉専門職者としての職業倫理を身につけ、それに基づき行動できる能力の習得、②具体的な課題別のソーシャルワーク事例等を活用して、生活に密着した総合的援助の実践的手法の習得、③ソーシャルワーク実習後（実習免除者は福祉現場経験）の振り返りなどを集団で学び合う。また、基本的なソーシャルワークの概念や倫理を復習するとともに、グループワークを通して共同学修を行う。
教科書 なし
参考文献 必要に応じて適宜紹介する。
学生に対する評価 評価基準の詳細については、通常の科目と異なるため別途説明する。